畜産業発展を祈願し、保食神社で馬頭観世音祭

5月8日、小林地域家畜市場内の保食神社で馬頭観世音祭が開催されました。畜産関係者ら約160人が参加し、家畜の無病息災と発展を祈願。市畜産振興会連合会の折田巌理事長は「畜産は市の基幹産業。しっかりと守り、益々発展するよう努力していきたい」とあいさつしました。

馬頭観世音祭は、家畜の慰霊、五穀豊穣や家内安全を祈願するもの。市内の各地域でも、伝統行事として行われています。

この拠点を活用し、市の農畜産物の魅力を地域内外に発信することで、産業や観光など地域経済の活性化につなげます

食と農の魅力創生を目指しフレンチレストランを開店

5月7日、宮崎牛や鯉、チョウザメ、野菜など市産の食材をPRするための拠点「Kokoya de kobayashi（ここやっど小林）」をオープンしました。オーナーシェフを務めるのは、優秀公邸料理長の地井潤シェフ。地井シェフは「料理を通して、小林市のPRに貢献したい」と話していました。

取り組みを紹介します

きずな協働体　今月は、野尻地区

ハーブのまちづくり奮闘中！

現在、野尻では地域内の高齢者に呼び掛けてハーブの生産に取り組んでいます。野尻には他の市町村には無い、県の「薬草・地域作物センター」があり、指導を受けながら試行錯誤を重ねて栽培しています。最初の作付けの「ポットマリーゴールド」が何とか収穫までたどり付くことができました。初めての取り組みで分からないことだらけでしたが、20名近くの方々が計画に賛同していただき、それぞれの判断で独自の栽培方法に取り組んでいただいています。まさに、野尻の持つ「フロンティア精神」そのものを感じています。

第二弾の品種も決まり、これからも皆さんと楽しみながら挑戦していきます。

ポットマリーゴールド

輝けフロンティアのじり
ハーブ担当　竹原信一副会長

少年少女剣士328人が出場須木で薫風杯剣道大会を開催

4月29日、第30回薫風杯剣道大会が須木地区体育館で開催されました。県内外の小・中学生ら34団体93チーム328人、うち市内からは6団体37人が出場。各チーム熱戦を繰り広げ、打ち合いの末に技が決まると、チームメイトや保護者から大きな歓声が上がっていました。

同大会は、剣道を通した子どもたちの心身の鍛錬と健全育成を目的に、毎年4月29日（昭和の日）に開催されています

須木の自然を楽しむすきむらんど滝まつり開催

5月5日、すきむらんど滝まつり2018が開催されました。市内外から約1500人が来場し、地元の特産品や工芸品を販売する「すき物産市」、歌やダンスなどのステージイベント、豪華景品が当たる大抽選会、魚のつかみ取り大会を実施。会場は多くの家族連れで賑わっていました。

約360匹のニジマスやコイのつかみ取りを楽しむ子どもたち。また、小野湖ではカヤック体験教室が同時開催されました

園内に咲き誇るカリフォルニアポピー。まつり期間中は、春の物産市やご当地グルメ屋台、いこまdeマルシェなども行われました

色鮮やかなポピーの絨毯生駒高原に25万本が開花

4月21日から5月20日にかけて、生駒高原ポピーまつりが開催されました。広さ8ヘクタールの園内では、ピンクや黄色のアイスランドポピーと、オレンジ色のカリフォルニアポピーなど約25万本が満開。県内外から期間中約1万7000人が来場し、満開のポピーを眺めていました。

閉校後、ミッギャッが踊られたのは初めて。三味線と太鼓の音に合わせて、参加者は輪になって踊っていました

懐かしの地区住民集まり山代分校跡地で祭り開催

5月4日、山代分校OB会祭りが山代もみじ館（山代分校跡地）で開催されました。同地区では昭和53年の閉校以降、約40年ぶりのイベントを開催。出身者やその家族など約70人が集まり、当時学校の授業で書いた詩を使ったミニゲームや伝統芸能ミッギャッの披露が行われました。

誓いのことばを述べる大木場主任研究員。教育研究センターは創設35年目を迎え、本市教育の充実発展に寄与しています

キャリア教育研究深める 教育研究センター21人委嘱

5月18日、市教育研究センター研究員に市内小・中学校の教員21人が委嘱されました。代表して三松小学校の大木場俊弘（おおこばとしひろ）主任研究員は「校種間の縦のつながり、学校と地域社会との横のつながりを強め、小林の未来を担うキャリア教育に貢献していきたい」と誓いのことばを述べました。

甘さ、大きさともに上々 メロン・マンゴーを贈呈

5月22日、第7回メロン・マンゴーフェアの開催に伴い、JAこばやしメロン部会と同マンゴー部会から宮崎ブランドの「めろめろメロン」と「太陽のタマゴ」が贈呈されました。メロン部会の大角正廣（おおづのまさひろ）部会長は「冬の寒さが心配されたが、収量も出来も上々です」と話していました。

左からマンゴー部会の松田泰一（まつだやすかず）部会長、宮原市長と大角部会長。松田部会長は「多くの人に味わってほしい」と話していました

野尻のバラの名所を巡る ローズフェスタ2018開催

5月12日から20日にかけて、のじりローズフェスタが開催されました。萩の茶屋、のじりこぴあ観光バラ園、のじりアグリサービス、大塚原バラ園の4箇所でバラの花束や農作物が当たるスタンプラリーを実施。期間中延べ2100人が来場し、色鮮やかなバラを見ながら各施設を周遊しました。

色鮮やかなバラを眺める来場者。フェスタ最終日には、大塚原バラ園でハーブや物産を楽しむ大塚原バラ祭りも開催されました

当日は、東方小・東方中・都城きりしま支援学校小林校中学部の児童・生徒ら合わせて150人が集まりました

市に関連する古事記の神話を学び郷土愛を深める

5月22日、東方中学校で女優の柴田美保子さんによる「ひむか天語り」が開催されました。日本最古の歴史書である古事記に書かれている神話の世界を学ぶことで、郷土に対する誇りと愛着を育むことが目的。柴田さんの表現豊かな語りに児童・生徒らは興味深そうに聞いていました。

河川の環境監視などを続けている
小林市河川浄化等推進員
温水（ぬくみず） 正行（まさゆき）さん（82）

川が好きだから続けてこれた。昔のように小さな魚がいる、きれいな川が戻ってきてほしい。

小林人 こばやしびと Vol.77

「小林市河川浄化推進員」と書かれた青い帽子を被り、市内の河川の監視を10年以上続けている人がいる。

温水正行さん、82歳。

河川環境の監視や、浄化に関する啓発活動などを推進することが河川浄化等推進員の役割だ。

2月には、これまでの活動が評価され大淀川水系水質汚濁防止対策連絡協議会から表彰を受けた。

推進員になったのは70歳のとき。知人に勧められ引き受けた。

温水さんが担当するのは、真方地区にある山宮川、市谷川、年神川の3つの河川。しかし、当初は河川の場所すら知らなかった。

そこで、自分が担当する河川のすべてを見て回り、河川の状況を的確に確認できるよう、監視する場所やルートを数か月かけて開拓していった。

推進員になった当時から一緒に河川の監視を続けている妻ヨシ子さんの存在も大きい。

「私も妻も釣りが趣味なので、きれいな川をいつまでも守りたい。何より妻と一緒に行くことが楽しい」。

年に一回、清掃活動を行う機会がある。残念なことに大量のゴミが集まる。

「きれいな川を守るためには、みんなの協力が必要。まずは川にごみを捨てないことで誰もが河川を守ることができる」と話す。

「小さな魚がいることがきれいな川の証拠。子どもたちが安心して遊べる川が戻ってきてほしい」。

子どもたちの未来のために、今日も清らかな河川を守り続ける。

㊤自宅には夫婦ともに趣味の釣り道具が。㊥担当している河川の一つ、市谷川。水嵩や水量、水質などを毎月確認している。㊦10年以上記載している業務日誌。3か月に一度、市へ報告している。